

かえってきさいやうわじまへ

～地元の若者が帰ってきたくなるようなまちづくり～

武田楓有 二宮柚華

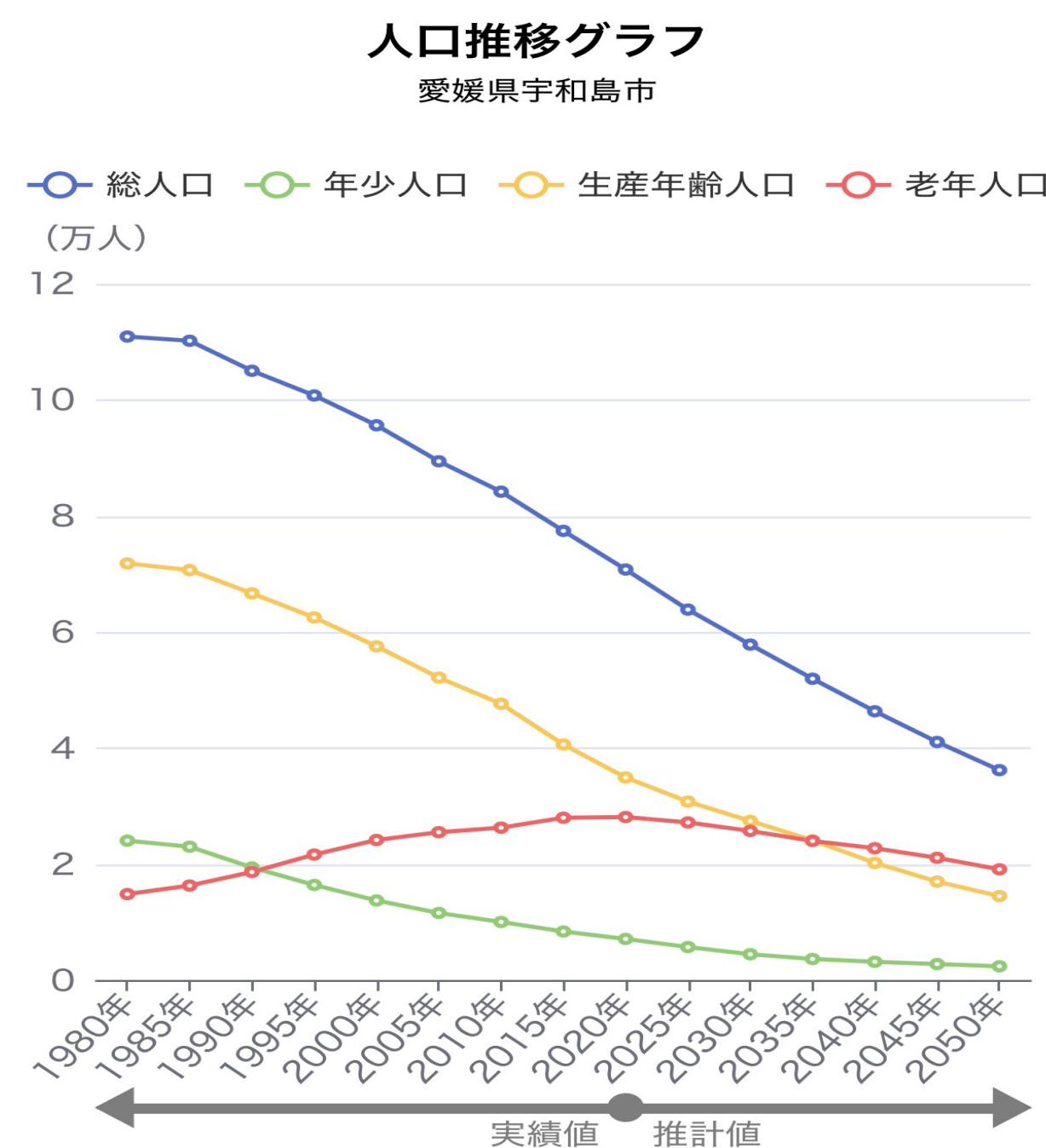
土居蒼一郎 大黒煌治 樽川隼人

指導者：有元慶子

研究背景

宇和島市では、右の図のように少子高齢化と人口減少が進んでおり、商店街や住宅地には空き店舗が増えている。一方、子どもや若者が地域の人と関わる機会が少なく、地域とのつながりが薄くなっていると感じている。

私たちは、**使われていない空きスペースを地域の交流の場として活用**できれば、世代を超えたつながりを生み出し、少子高齢化の課題解決につながるのではないかと考え、この研究を行うことにした。



実際にイベントに参加して

実際に先輩方が企画した地域イベントに参加したところ、フोटスポットや工作体験などの体験型企画が多く用意されていた。子どもと保護者、高校生が同じ作業を行うことで、世代を超えた交流が見られ、自然に会話が生まれていた。今回は宇和島オリエンタルホテル内の空きスペースで実施し、普段は活用されていないスペースが有効活用されていた。同ホテルが企画している屋上菜園でのイベントも同日に行われていたことや、近隣であるパフィオでイベントが開催されていたこともあり、50名ほどの参加者に楽しんでもらうことができていた。**開催日時や開催場所、イベント内容の工夫**により、参加者は年齢に関係なく楽しんでおり、誰もが参加しやすく、安心して過ごせる場所となっていると感じた。この経験から、自分たちもこんなイベントを開催したいと感じた。

仮説

宇和島市において、空きスペースを活用し、子ども・高齢者・若者が一緒に参加できるイベントを行うことで、世代間交流が生まれ、地域への愛着が高まり、**将来的に若者を地域に呼び戻すきっかけ**になるのではないかと考えた。

研究方法

研究方法として、3年生商業科の課題研究で行っている地域イベントに参加し、イベントの内容や運営方法、空きスペースの活用方法について学ぶ。また、参加されている方にアンケートを実施し、宇和島市の子育て環境やどのようなイベントを求めているかを調べる。

今後について

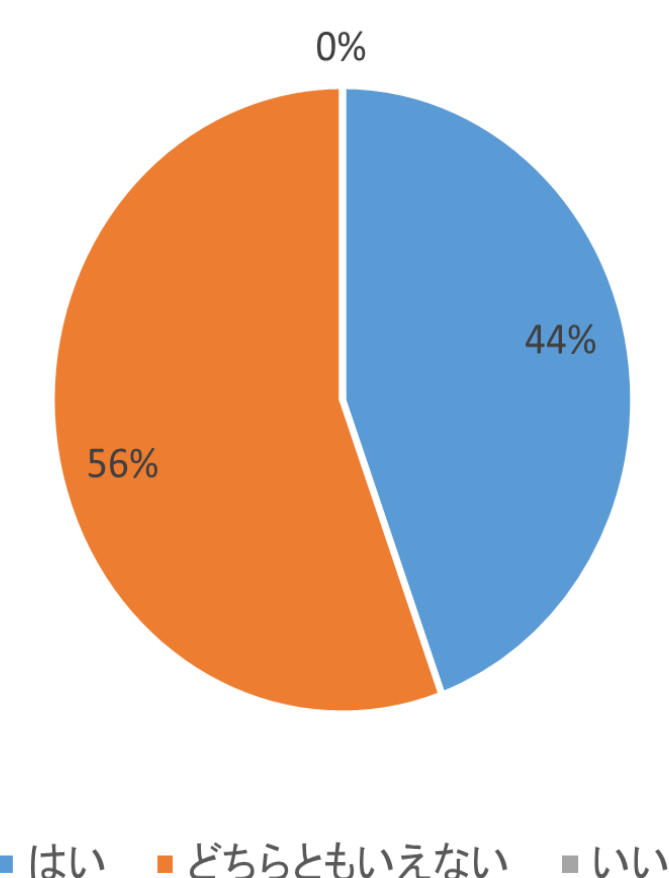
少子高齢化と人口減少が進む宇和島市の課題について、空きスペースを活用したイベントによる解決の可能性を調べた。保護者を対象にアンケート調査を行い、子どもと参加しやすいイベントととして求められている内容を把握した。また、先輩方が実施している地域イベントに参加し、内容や運営方法を観察した。これらの調査結果をもとに、多世代が交流できるイベントを検討した。さらに、若者が地域に関わり、将来的に宇和島市に戻りたいと思うきっかけになるかを考察していきたい。

アンケート結果

参加した保護者を対象に行ったアンケート調査の結果、**宇和島市は子育てしやすい町だとは言えない**と感じている人が多いことが分かった。理由として、子どもが安心して遊べる場所や、親子で気軽に参加できるイベントが少ないことが挙げられた。また、平日や休日に子どもと過ごす場所が限られており、家庭以外で地域と関わる機会が少ないという意見も見られた。このことから、宇和島市では子育て世代が地域とつながる場が十分に整っていない現状があり、子育てのしやすさを感じにくい要因になっていると考えられる。



宇和島市は子育てがしやすいと思いますか



イベントの様子(上)とアンケート結果(下)